氏名（本籍）	永野　惣一		
学位の種類	博士　（　カウンセリング科学　）		
学位記番号	博甲第　9743　号		
学位授与年月	令和　3　年　2　月　28　日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	弱い紐帯との交流がキャリア・リフレクションに及ぼす影響		
主査	筑波大学准教授	博士（心理学）	藤　桂
副査	筑波大学教授	博士（心理学）	岡田　昌毅
副査	筑波大学准教授	博士（文学）	大塚　泰正
副査	白鷗大学教授	博士（心理学）	湯川　進太郎

論文の内容の要旨

永野氏の学位論文は、自律的なキャリア形成が求められる昨今において、重要な意味を持つとされるリフレクションに焦点を当てながら、その発生過程を明らかにしたものである。その際、自身のキャリアに対するリフレクションを促進する要因として、弱い紐帯との交流に着目しながら、複数の実証的データに基づきその効果について分析している。その要旨は以下のとおりである。

まず永野氏の学位論文の第 1 章では、自律的なキャリア形成が求められつつも、働くことそのものへの肯定的な意味づけが喪失されつつある昨今の社会的状況について概観し、本学位論文を通して解決すべき問題について明確化している。続く第 2 章では、第 1 章で述べた社会的問題を背景として、キャリアに関するリフレクション（以降、キャリア・リフレクションと表記）、および弱い紐帯との交流がもたらす効果に関する国内外の先行研究を幅広く概観し、該当領域の研究動向を整理している。そのうえで、先行研究における問題点として、第一にキャリア・リフレクションに関する先行研究に関して、身近な対人関係の中で生じるものに焦点を当てた検討が多く、交流頻度の低い希薄な関係性の中で生じる可能性については検討が不十分であること、第二に弱い紐帯に関する先行研究に関して、自身のキャリアに対する振り返りを促す効果について検討した研究は乏しいことを見出している。そして第 3 章では、これらの問題点に対応させながら本学位論文のアプローチ方法について論じるとともに、昨今において急速に普及したソーシャルネットワーキングサービス（Social Networking Service; 以降 SNS と表記）上で展開されるコミュニケーションに着目することの意義についても言及し、続く 3 部構成に基づく実証的研究を実施することを本学位論文の目的として位置づけている。

実証的研究の第一部として設けられた第 4 章では、キャリア・リフレクションの内容・構造を分析することを目的として行われた一連の研究の成果についてまとめられている。まず研究 1 では、弱い紐帯との交流を経て生じたキャリア・リフレクションの内容・構造に関する探索的検討として、現職社会人への半構造化面接を行い、得られた発言内容の分類を通してその整理を試みた結果が示されている。この研究 1 の結果に基づいて実施された研究 2 においては、現職社会人に対する調査を通して、キャリア・リフレクションの内容・構造について多変量解析により検討し、大きく 4 種類へと整理されることを明らかにしている。なお本章で示されたこの構造は、以降に実施した研究 3 および研究 6 におけるデータでも再

現されているとともに、一定の併存的妥当性を備えるものであることも示されている。

この知見に基づき、実証的研究の第二部として設けられた第 5 章では、弱い紐帯との交流がキャリア・リフレクションを促進するまでの影響過程について検討している。まず研究 2 のデータを分析した結果に基づき、弱い紐帯と再会した際に、自身の仕事に関する内容や将来に対する期待に関する話題を交わすことにより、自身のこれまでの仕事ぶりやキャリアの蓄積を肯定的に捉え直すことができ、さらに現職におけるワーク・エンゲイジメントの向上にも結び付くことを明らかにしている。そして研究 3 では、研究 2 から示された影響過程について、3 波に及ぶ縦断的調査から得られたデータを用いて再検証を行い、弱い紐帯との交流がキャリア・リフレクションを促進し、最終的にワーク・エンゲイジメントを高めるという結果が再度確認できたことを示している。加えて弱い紐帯のなかでも、特に近接性、信頼性、親密性、相互扶助性が感じられるような関係性にある相手との交流が、キャリア・リフレクションを効果的に促進し得ることも明らかにしている。

実証的研究の第三部として設けられた第 6 章では、これまでの研究知見を基盤としながら、現在広く普及している SNS 上でのコミュニケーションに着目し、SNS 上での弱い紐帯との交流もまた研究 2 および研究 3 と同様、キャリア・リフレクションを促進するという仮説を設定し、その検証を試みている。まず研究 4 では、SNS 利用者を対象とした調査を実施し、回答内容の整理・分類を通して、対面での交流と同じく、SNS を介した交流の際にも十分にキャリア・リフレクションが生じ得ることを明らかにしている。また、そうしたキャリア・リフレクションは、対面でも SNS 上でもともに交流頻度が低い相手との交流の中で生じやすいことについても示しており、弱い紐帯との交流がキャリア・リフレクションの促進において重要な要因となることを支持する結果を得ている。加えて研究 5 では、SNS 上において顕著にみられる記事の閲覧や投稿といった形のコミュニケーションがもたらす影響にも着目し、特に、日々の仕事ぶりなどについて投稿するという行為が、自身の職務およびそれに伴うストレスを肯定的に捉え直す契機となり得ることを示している。さらに研究 4 および 5 の知見を踏まえて実施された研究 6 では、3 波に及ぶ縦断的調査の分析結果を通して、SNS 上での弱い紐帯との交流が、キャリア・リフレクションの促進ならびにワーク・エンゲイジメントの向上をもたらすまでの影響過程を明らかにしている。

最後に第 7 章ではこれまでの実証的研究からの知見を総合的に考察するとともに、これまでの知見を集約した成果として「再生された紐帯によるキャリア・リフレクションモデル」を提唱している。また当該のモデルを踏まえ、本研究の学術的意義および実践的意義についての考察を行っている。

審査の結果の要旨

（批評）

永野氏の学位論文は、弱い紐帯との交流がもたらす効果について、自身のキャリアに対するリフレクションの促進という観点から明らかにしたものであり、従来の研究においては見られない独自な視点に基づく実証的研究として高く評価すべき論文である。また、現職社会人を対象とした複数の調査を重ねながら、多変量解析を通して緻密な分析を重ねている点は、方法論的にも優れたものである。さらに、昨今の社会的動向を踏まえ、SNS 上での交流の諸相やその影響についても考慮している点についても高く評価される。これらのプロセスを通して得られた知見は独創的かつ画期的なものであり、深い学術的意義を有するのみならず、国内外のキャリア支援の現場にも広く援用され得る社会的還元性の高い知見といえる。

2020 年 12 月 23 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。
よって、著者は博士（カウンセリング科学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。